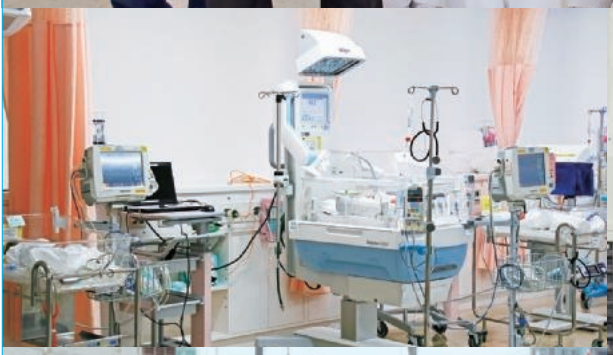
加古川市民病院機構　理念

いのちの誕生から生涯にわたって地域住民の健康を支え、頼られる病院であり続けます

加古川中央市民病院　地域連携情報誌

# きらり

vol.22
2020年1月



巻頭言
周産期医療
～いのちの誕生への当院の取り組み～ …2
地域への情報発信 ……5
診療ドクター紹介 ……6
連携医紹介 ……7
連携室ニュース ……8


特集　3－5

## 周産母子センター

「赤ちゃんにやさしい病院」
～人生のより良いスタートを一助～

巻頭言

# 周産期医療
## ～いのちの誕生への当院の取り組み～

理事（兼）副院長（兼）産婦人科
主任科部長
房（ぼう）　正規（まさき）

加古川中央市民病院の理念は、「いのちの誕生から生涯にわたって地域住民の健康を支え、頼られる病院であり続けます」です。このいのちの誕生という言葉には、お母さんの胎内で生命が始まったときから、という気持ちが込められています。今回はこのいのちの誕生への当院の取り組み＝周産期医療についてご紹介します。

現在の医療では胎外での生命維持が可能となる時期（流産と早産の境界）を妊娠22週からとしています。周産期は妊娠22週から生後７日未満までの期間を指します。周産期医療はこの期間の妊婦、産婦、褥婦と胎児・新生児が対象です。この期間には合併症のある妊婦や早産児など、予めハイリスクと認識していたケースだけでなく、全く正常に経過していたケースが、突然に重篤な状態におちいることもあります。このような母体・胎児や新生児の生命に関わる緊急事態に備えて、当院では５大センターの一部門として周産母子センター（県指定の地域周産母子センター）を設置し、産科と新生児科が常に救急診療体制を敷き、綿密に協力し治療にあたっています。

厚生労働省の推計では2019年の出生数は1899年の統計開始から初めて90万人を割り、過去最少となると見込まれています。また体外受精によって生まれる子どもは2016年にすでに18人に１人を上回っています。これらの事象は初産年齢の高齢化によるものと考えられます。初産年齢の高齢化が周産期医療に及ぼす重大な影響の一つが、合併症を持った妊婦の増加です。当院には32の診療科がありますので、個々の合併症に沿った診療科との協力により、周産期センター産科の対応力を高めてまいりました。周産期センター新生児科も同様に、手術が必要な場合も含め当該診療科とともに新生児への対応力を高めています。

当院では診療科だけでなく、薬剤部、栄養科、臨床心理、リハビリ等がワンチームとなり体と心のサポートを行うチーム医療を推進しております。周産期医療においても地域の将来を託せる新しいいのちと、それを育むお母さんを応援してまいります。

Featured
特集

# 周産母子センター
## 「赤ちゃんにやさしい病院」～人生のより良いスタートを一助～

どのような妊婦さんに対しても安全な出産を目指し、小児科・内科・精神科などと連携して慎重に妊娠経過を見守ります。何らかの産科合併症有する帝王切開や、産後の異常出血・腟壁会陰血腫における緊急処置にも、麻酔科・放射線科の協力を得て、最善の対応を致します。また、当院はユニセフから「赤ちゃんにやさしい病院」と認定されており、経験・技能に優れたアドバンス助産師を中心に、母乳育児を通して、母児の健やかな愛着形成をお手伝いします。

周産母子センター長（兼）産婦人科　科部長
**太田　岳人**

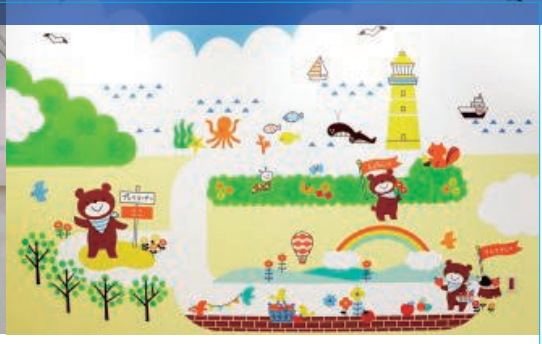
複数の診療科との連携を通して、ほぼ全ての新生児疾患に対応できる体制を整えており、東播磨、北播磨地域における新生児医療の中核施設として、赤ちゃんの命を守ります。またカンガルー号（新生児専用の救急車）を有しており、地域の産院でのハイリスク分娩への立ち会いや病的新生児の受入れも24時間365日行っています。また、新生児心肺蘇生法（NCPR）講習会を定期的に行い、新生児蘇生法の地域への普及を進めています。

地域の将来を担う子どもたちの人生のスタートを全力でサポートして参ります。

周産母子センター　副センター長（兼）小児科　科部長
**森沢　猛**

産婦人科では病棟と外来が一元化し、助産師41名が正常からハイリスクまでの妊娠、出産そして婦人科疾患のケアをしています。特にアドバンス助産師が中心となって助産師外来にて妊婦健診や母乳支援を行い、また2018年からは院内助産を始め、ご家族にとって、満足度の高い出産を目指しています。私達は、母子の絆を大切にし、母乳育児にも力を入れ、「赤ちゃんにやさしい病院」BFH施設として認定されています。

産科病棟・産科外来　師長
**葉田　真美子**



NICUは15床あり、院外出生児も専用の新生児救急車で受け入れています。

新生児は状態が変化しやすいため、看護師は高度な知識と熟練した技術、鋭い観察力が要求され、「新生児の障害なき救命」に向けて、治療・看護を提供しています。

また、「赤ちゃんにやさしい病院」として、早期に受持ち制を導入して、母乳育児支援やカンガルーケア等に取り組んでおり、臨床心理士・リハビリ・地域の保健師とも連携をとって、継続看護にも力を入れています。

NICU　師長

**上谷　佐智子**

私は新生児集中ケア認定看護師として、現在は入退院支援室で入退院支援加算3専従として勤務しています。NICUやGCUには医療的なケアを必要とする新生児や社会的ハイリスク要因を抱えるケースもあり、入院早期から退院後の生活を視野に入れた支援を病棟看護師や他職種・地域と連携しながら関わっています。NICUからGCU、そして退院後まで切れ目のない支援を行い、安全で安心して地域での生活に移行できるように、退院前訪問や退院後訪問も行なっています。

患者支援センター　入退院支援室
新生児集中ケア認定看護師

**松村　好野**

GCUは30床あり、NICUで集中治療を受け急性期を脱した患児や、産科や当院の新生児外来、新生児搬送による患児の入院を受け入れています。GCUで出会う患児と家族は、患児の疾患や家族が置かれている状況によって様々ですが、どのような状況であっても、私たちは患児が退院後の生活の場で安全で健やかに生活できることを大切にしています。そのために、院内の関連する多職種はもちろん、行政機関等とも密で細やかな連携を図り、病院・地域を分け隔てることなくチーム医療を実践しています。

GCU　師長

**永冨　宏明**

# 周産期の院内活動

BFH（赤ちゃんにやさしい病院）として母乳育児を可能な限りサポートし、赤ちゃんがより健やかに育つお手伝いをしています。

母乳育児に興味があるママと赤ちゃんを対象に、育児に関する情報を共有したり、不安や疑問を解消したり、参加者で楽しい時間を過ごす場を提供する『母乳育児サークル』やご夫婦で安心した妊娠生活を送れるように、そして元気な赤ちゃんを出産していただけるように、妊娠期間を３期に分けて『両親学級』を実施しています。

## 両親学級　プログラム

| 開催日 | 内　容 | 講　師 |
|---|---|---|
| 奇数月の第1木曜日<br>妊娠16～24週 | 第1回<br>「健康的なマタニティライフ」<br>妊娠中の生活･栄養･妊婦体操 | 助産師<br>管理栄養士<br>産婦人科医師 |
| 偶数月の第1木曜日<br>毎月第2木曜日<br>妊娠24～32週 | 第2回<br>「出産と育児」<br>お産の準備･育児体験 | 助産師 |
| 毎月第3･4木曜日<br>妊娠32～36週 | 第3回<br>「お産に備える」<br>お産の経過と呼吸法･母子同室 | 助産師<br>小児科医師 |

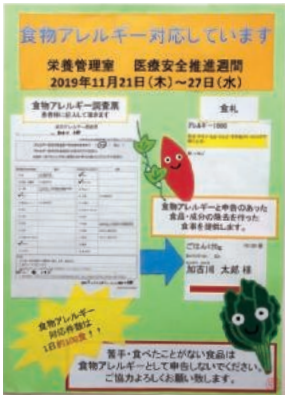
## 2019 年度　育児サークル予定表

| 月　日 | 内　容 | 講　師 |
|---|---|---|
| 1月28日 | こどものお口のおはなし | 歯科衛生士 |
| 2月25日 | 心の育ちを支える | 臨床心理士 |
| 3月24日 | 赤ちゃんと遊びについて②<br>～わらべ唄と絵本の紹介～ | 小児科病棟<br>保育士 |

地域への情報発信

# 医療安全室より活動報告

「患者の安全を守るための共同行動」の取り組みについて国民の理解や認識を深めることを目的として、「医療安全推進週間」が設けられています。当院においても医療安全に対する意識向上をはかり、患者さんの医療安全についての理解を深めていくために、各部署でポスターを作成し、11 月 21 日(木)～ 11 月 27 日(水)までの一週間、2 階 12 番ブロック壁面に掲示しました。これからも日々院内への啓蒙に努めます。



# 診療ドクター紹介

当院の診療担当医師を紹介いたします。
ご紹介頂く際にご参照ください。

## 脳神経内科

2019年４月より
神経内科から改名

詳しくはホームページをご覧ください
加古川中央市民病院　脳神経内科　検索

2019年４月より神経内科→脳神経内科へ改名致しました。引き続きスタッフ３名による24時間オンコール体制で、脳卒中・脳髄膜炎・ギランバレー症候群・てんかん発作といった神経系救急疾患に対応しています。超急性期脳梗塞に関しては、rt-PA血栓溶解療法に加えて、当院脳神経外科での脳血管内治療も始動し、可能な限り迅速な対応を心がけています。

脳神経内科　主任科部長

### 石原 広之
（いしはら ひろゆき）

［資格等］
日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本神経学会神経内科専門医・指導医
厚生労働省認定臨床研修指導医
医学博士

脳神経内科では、脳卒中・神経感染症・神経変性疾患・神経免疫疾患・てんかんなど、脳から脊髄・末梢神経・筋肉に至る脳神経系疾患を幅広く対応しております。急性期疾患については、365日オンコール体制で可能な限り対応しております。当地域にも多数の神経難病患者がおられますが、地域の先生方に御協力いただきながら、東播磨地域の神経診療を支えていきたいと考えております。お困りの症例がございましたら是非ご紹介ください。

脳神経内科　医長

### 永田 格也
（ながた かくや）

［資格等］
日本内科学会認定内科医・指導医
日本神経学会神経内科専門医

脳卒中などの救急疾患からパーキンソン病などの慢性疾患まで、また片頭痛など頻度の高いものからギラン・バレー症候群や筋ジストロフィーなど稀なものまで、幅広い神経筋疾患の診療にあたっています。
特に、早期の適切な治療介入が予後の改善につながる脳炎、細菌性髄膜炎、脊髄炎、てんかん重積状態、発症後間もない脳梗塞などには、迅速に対応できるよう心掛けています。

脳神経内科　専攻医

### 刀坂 公崇
（かたなざか きみたか）

［資格等］
日本内科学会認定内科医

地域の中核病院で勤務させて頂いていることもあり、どんな症例であっても喜んで拝見させて頂きたく存じます。
明らかに脳卒中が疑われる症例はもちろんのこと、恐らく末梢性であろうめまい症、数分で改善してしまった痺れ・麻痺、髄膜炎が否定しきれない発熱・頭痛、よく分からない不随意運動、謎のADL低下等。迷わしい症例含めご相談頂けましたら幸いです。宜しくお願い致します。

### 主な対応可能疾患

●脳血管障害　●神経変性疾患　●神経免疫疾患　●神経系感染症　●筋疾患　●末梢神経疾患　●発作性疾患　●代謝性疾患

### 診療実績（2018年1月～12月）　入院数　306件

（件）

| | |
|---|---|
| **脳卒中** | 99 |
| 脳梗塞 | |
| 脳出血 | |
| 一過性脳虚血発作 | |
| 脊髄梗塞 | |
| 脳静脈洞血栓症 | |
| **神経変性疾患** | 51 |
| パーキンソン病 | |
| パーキンソン症候群（進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症など） | |
| 筋萎縮性側索硬化症 | |
| 多系統萎縮症 | |
| 脊髄小脳変性症 | |
| ハンチントン病 | |
| アルツハイマー型認知症 | |
| レビー小体型認知症 | |
| **発作性疾患** | 31 |
| てんかん | |
| 良性発作性めまい症 | |
| **神経系感染症** | 26 |
| ウイルス性髄膜炎 | |
| 細菌性髄膜炎 | |
| 急性脳炎・脳症 | |
| 脳膿瘍 | |
| **末梢神経疾患** | 16 |
| ギランバレー症候群 | |
| 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎 | |
| シャルコー・マリー・トゥース病 | |
| 家族性アミロイドポリニューロパチー | |

| | |
|---|---|
| **神経免疫疾患** | 14 |
| 多発性硬化症 | |
| 視神経脊髄炎 | |
| 重症筋無力症 | |
| 神経サルコイドーシス | |
| **筋疾患** | 12 |
| 多発筋炎 | |
| 封入体筋炎 | |
| ベッカー型筋ジストロフィー | |
| ミトコンドリア脳筋症 | |
| 低カリウム性ミオパチー | |
| **その他** | 57 |
| 脳腫瘍（原発性、転移性、脳原発悪性リンパ腫） | |
| 傍腫瘍症候群（辺縁系脳炎、亜急性小脳変性症など） | |
| 正常圧水頭症 | |
| 横断性脊髄症、脊髄硬膜動静脈瘻 | |
| 失神発作 | |
| 代謝性脳症 | |
| 悪性症候群、中毒性脳症 | |
| ボツリヌス治療：眼瞼痙攣、片側顔面痙攣、痙性斜頸、上下肢痙縮 | 33 |

ハイブリッド筋電図（筋電図検査＋超音波検査）

# 連携医紹介

当院と連携いただいている医療機関をご紹介します。

## 平本医院 ［ 診療科：精神科／心療内科 ］

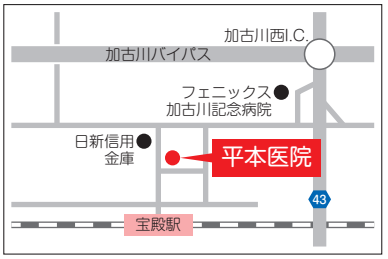
2001年7月、宝殿駅北で心療内科·精神科「平本医院」を開業し、あっという間に18年の歳月が過ぎました。開業前は、旧加古川市民病院の精神神経科に1年間勤務し、放射線科の土師先生や脳外科の潤井先生はじめ、たくさんの先生方、職員のみなさまにお世話になりました。開業後は、CT、MRI、SPECTなどの放射線科の検査や他科診でずっとお世話になっております。

診療は、小学生の不登校から、成人のひきこもり、うつ病、パニック障害、統合失調症、老年期の認知症まで、幅広い年齢層の患者さんの心のケアに携わっています。クリニックの3階にカウンセリング室「陽だまり」を併設し、カウンセリングや心理テストを行い、ヨガ教室、気功教室などを開いています。

良い職員に恵まれ、良い患者さん達に支えられながら、ストレスのかかる精神科診療を何とか18年続けて来ました。その傍ら、文筆家、シンガーソングライターとしても活動しています。著書は「みんなつながっている」（日新報道）など4冊、親父フォークバンド「ノンちゃんと七福人」を率いて、「わが町高砂／月下美人」「雨の宝殿駅／青空」の2枚のCDをリリースし、「わが町高砂」「月下美人」はカラオケに入っており、「雨の宝殿駅」「青空」も近々入る予定です。

同じ地域の医療を支える医療機関として、今後も加古川中央市民病院との連携を深めながら、地域医療に貢献していく所存です。よろしくお願いいたします。

院長 平本 憲孝 先生




所在地：高砂市神爪1丁目1-20
グランパティオ宝殿2F
駐車場台数：15台

**TEL.079-434-5811**

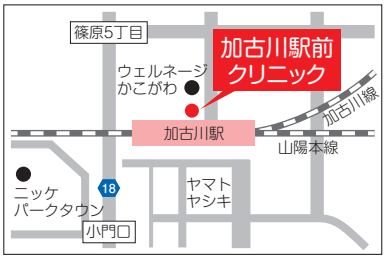
| 診療時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 9:30〜12:30 | ○ | ○ | − | ○ | ○ | ○ | − |
| 午後 16:00〜18:30 | ○ | ○ | − | ○ | ○ | − | − |

## 加古川駅前クリニック ［ 診療科 ： 内科／循環器内科／消化器内科 ］

令和元年10月よりふじえクリニックを継承いたしました尾山純一です。縁あって妻の地元である加古川で、名称も加古川駅前クリニックと変更し診療に当たっております。私は卒業後、地元である北部九州の病院で循環器内科医として急性期医療に従事して参りました。また最近は睡眠時無呼吸症候群の基礎·臨床研究や診療にも積極的に従事して参りました。この疾患は他科との連携が必要な疾患ですので、循環器科のみならず呼吸器科、耳鼻科及び精神科の先生方とともに連携して診療に当たる事が出来ればと考えております。

医院名と院長は変わりましたが、スタッフや診療方針など変わることなく診療を行って参ります。前院長の藤江先生も顧問として引き続き検査·診療に参加して頂いております。今後、専門医の知識と経験を活かし、地域の皆様の「健康」、そして「より良い人生」に少しでもお役に立てるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い致します。

院長 尾山 純一 先生




所在地：加古川市加古川町溝之口503-2
ビエラ加古川
駐車場台数：共同利用63台

**TEL.079-424-1158**

| 診療時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 9:00〜12:00 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | − |
| 午後 16:00〜19:00 | ○ | − | ○ | − | ○ | − | − |

# クリスマスフェスタの報告

12月7日、『クリスマスフェスタ2019』を開催しました。来場者はおおよそ1,000名を超える来場者となり、盛況に終えることができました。同イベントでは、ヘリポート見学ツアーや消防車展示、医師やコメディカルによる相談コーナーの他、子ども向けブースも展開、ステージでは、研修医のアンサンブルや地元中学生によるクリスマスソングメドレー、マジックショーに加えて、抽選会も実施しました。会場にはたこせん、タピオカミルクティといった軽食も出店し、和やかな地域交流の場となりました。来年も多数のご来場をお待ちしております。

# 在宅医療連携研修会が開催されました

## 第5回

10月10日に「末期心不全患者の在宅療養支援～患者の思いを家族につなげる意思決定支援を考える～」をテーマに事例検討会を行い、院内外より43名の参加がありました。参加者からは、「病棟スタッフだけでは気付かなかったことに気付くことが出来て良かった」「病院と在宅が近くなった感じがした」等の意見がありました。病院から在宅に繋ぐ際の本人・家族への関わりについてお互いに意見交換ができ、各々の立場を共有し合うことができた研修会になりました。

## 第6回

11月13日に慢性疾患看護専門看護師の林美代子さんより、「慢性疾患とともに生きる方の理解」というテーマで、慢性疾患とともに生きること、エンド・オブ・ライフケアとACPについての講義を行いました。院内外から54名の参加がありました。参加者からは、「丁寧な説明でわかりやすかった」「改めて難しさを感じた」との意見や「介護者・看護者の最善ではなく、『本人にとっての最善』を考えながら関わることの大切さを感じた」との声もありました。意思決定への関わりは、地域と病院が患者の思い・情報を共有し進めていくことが大切であると考えさせられた研修でした。

## 第7回

12月12日に「在宅で腹膜透析（CAPD）を行う患者の支援 ～治療の場を病院から地域へつなげる～」というテーマで事例検討を行い、院内外から42名の参加がありました。患者の「腹膜透析で最期まで自宅で過ごしたい」という思いを地域全体でどう支援していくことができるかについて、地域のフォロー体制の現状や今後の課題、他職種連携等について意見交換を行いました。参加者からは「医療的ケアの必要な利用者の在宅と医療との連携が必要になる中、多職種で検討する機会は大切である」という意見や「他の事業所の方と話ができ、今後何かあれば相談できると思った」という声もあり、施設や職種を超えた地域のつながりも実感できる研修となりました。

**今年度最終の研修会は精神看護専門看護師による講演会を3月12日（木）に予定しております。ご興味のある方々の多数のご参加をお待ちしています。詳しくは当院ホームページをご覧下さい。**

地方独立行政法人 加古川市民病院機構
加古川中央市民病院

患者支援センター地域連携室
予約専用 TEL.079-451-8651／FAX.079-451-8653
その他 TEL.079-451-8652／FAX.079-451-8654
http://www.kakohp.jp/medical_person/